



## 女形の愛と苦悩

松本 侑壬子・ジャーナリスト

梅蘭芳 (メイランファン) (1894 - 1961年) と  
言えば、京劇女形の代名詞とも言える俳優で、  
戦前戦後3回の来日を含んで日本にもおなじみ  
の人であった。その波乱の人生を描く本作には、  
華やかな舞台とその陰の愛と苦悩が浮彫りにさ  
れている。京劇の俳優同士の愛の悲劇を描いた  
話題作『さらば、わが愛 霸王別姫 (はおうべ  
き)』(1993年)のチェン・カイコー (陳凱歌) 監督  
が、再び京劇の世界に挑む芸と愛の人間ドラマ  
だ。ちなみに、『霸王別姫』は梅蘭芳が創作・上  
演した京劇の傑作の一つという。

梅蘭芳は1894年に京劇俳優の家庭に生まれ  
たが、早くに両親を亡くし、父親のように慕っ  
ていた伯父も非業の死を遂げる。皇太后の誕生  
日に赤い服を着なかったというだけの罪で処刑  
されたのだ。京劇人生の厳しさと誇りを綴った  
伯父からの励ましの手紙は、梅蘭芳の一生の支  
えとなった。

19歳で女形のスターとなった梅蘭芳 (青年時  
代=ユイ・シャオチュン) は、優雅にして華麗、“女  
性よりも女性らしい”動きと情感で圧倒的な人  
気を得る。日本の歌舞伎にも女形役者はいるが、  
客席が男性ばかりなのは、日本と違うところだ。  
さらに、京劇には男形女優もいるのも興味深い。  
偶然の出会いから梅蘭芳 (レオン・ライ) は、ホテ  
ルのパーティーで素顔のまま、男形女優・孟小冬

(モン・シャオトン) (チャン・ツイイー) と即興で京劇  
の一場面を演じる。声色も動きも、外観と裏腹  
の男女優がそれぞれ“男らしさ”“女らしさ”を  
演じて見せる。さらに、二人は衣装を着けて舞  
台でも共演するのだが、演技上の性別の入れ替  
わりは舞台での約束事として見れば、不自然が  
不自然とは思われない。図らずも“男／女らしさ”  
とは、作られ演じられるものであることがよく  
わかるのである。

むしろ、舞台を見守っていた梅蘭芳の妻の「(演  
技を超えて)感情がこもり過ぎている」という不  
安は的中し、二人はそのまま一気に運命の恋へ  
と落ちていくのだ。男の衣装を脱いだチャン・  
ツイイーのチャイナドレス姿のかわよさ。そ  
して、許されぬ恋に自ら決着をつけたのは、訪  
ねてきた梅蘭芳の妻との女同士の対話の結果で  
ある。小冬は欲望に耐え自己をコントロールす  
る強さをもつ、自立した女性としての鮮やかな  
イメージを残して去っていく。

梅蘭芳の活躍した時代は、中国の激動期であ  
る。京劇が旧文化の象徴として激しく批判され  
ることもあった。1937年、日中戦争に突入後は、  
日本軍の宣伝に利用されることに抵抗、口ひげ  
を生やし自らチフス菌を注射するなど決死の覚  
悟で舞台に立つまいとする梅蘭芳。そんな梅蘭  
芳を、何とか守ろうと奔走する京劇愛好家の日  
本人青年将校(安藤政信)の悲劇も描かれる。また、  
戦後の共産党時代にはプロパガンダとして京劇  
を革命現代劇に作り替えるなど、京劇は時代や  
政治の波に大きく翻弄された。梅蘭芳が、ほと  
んどの京劇関係者が迫害を受けた文化大革命の  
始まる前に、66歳で花の生涯を終えたのは、幸  
運だったと言えるだろうか。

### 『花の生涯~梅蘭芳(メイランファン)~』

中国映画(147分) / チェン・カイコー監督

3月7日より新宿ピカデリーほか全国ロードショー

